

2021年1月12日 IRDAY

第1部（豪州パート）13：10-14：00

登壇者：

常務執行役員 海外事業本部長 小田 信夫

NHフーズ・オーストラリア 代表取締役社長 稲富 聖二

#### **Q1.構造改革のポイントと来期の見通しについて**

収益の拡大とコスト削減の2軸で取り組んできた。収益の拡大は粗利の最大化をいかに行うかがポイントとなる。粗利が最大化する最適稼働と販売の見極めを生産・処理・販売の豪州グループ一体で取り組んだ結果と言える。

来期にかけてもコロナ禍における需要面や処理頭数の減少における生体価格の高止まりが想定される外部環境の厳しさは継続するとみている。その中で豪州のプレゼンスが発揮できる市場を見極めたい。

#### **Q2.伸長する中国国内の牛肉市場に対する対応について**

中国市場は、豪州産の高品質・安全性を訴求したブランド戦略を推進し、南米産牛肉のコモディティとの差別化につなげる。

#### **Q3.コモディティ市場への対応とウルグアイ事業の今後について**

付加価値をつけたプレミアム牛肉だけでなく、コモディティもしっかり販売していく。ウルグアイの牛肉は、素牛から高品質なこともあり他南米に比べて差別化が可能と考えている。目指すべき方向性は豪州と同じと考え、今後も改革を進めている。

#### **Q4.食肉事業本部とのシナジーについて**

豪州事業は、大麦牛ブランドの販売拡大とブラッシュアップということが食肉事業本部との連携の柱となる。海外事業本部全体では、日本からの輸出業務や自由貿易協定を見据えた事業活動で連携を強化する。

#### **Q5.豪州事業のフィードロットの割合と今後について**

ワイアラ牧場からの出荷は、豪州全体の処理45万頭のうち15万頭を占める。フィードロットを活用することで、差別化につなげブランド力を訴求する。

以上